

衛研第3 - 15号  
平成28年 7月13日

感染症発生動向調査事業  
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。  
なお、今週は下記の内容を含んでいます。

記

1. 今週の県内情報
2. 注目すべき疾患（腸管出血性大腸菌感染症・レジオネラ症）
3. 今週の注目される定点把握対象疾患の推移（グラフ）
4. 今週の全数把握対象疾患の報告数、累計
5. 今週の定点把握対象疾患の報告患者数、定点当たり報告数
6. 全国及び関東情報
7. Saitama Infectious Agents Surveillance Report  
埼玉県病原微生物検出情報（月報）
8. 今週の流行状況

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当  
電話 0493 - 59 - 9325  
FAX 0493 - 59 - 9613  
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

## 感染症患者発生情報（週報）

### 埼玉県内情報 平成 28 年 第 27 週（平成 28 年 7 月 4 日～平成 28 年 7 月 10 日）

#### 今週の注目される疾患

全数把握対象疾患では、一類及び二類感染症（結核を除く）の届出はなかった。三類感染症は、腸チフス 1 人、腸管出血性大腸菌感染症 14 人の届出があった。四類感染症は、レジオネラ症 6 人の届出があり、前週より増加した。五類感染症は、アメーバ赤痢 1 人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2 人、急性脳炎 1 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 人、後天性免疫不全症候群 2 人、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 2 人、梅毒 2 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、ヘルパンギーナ(1.69 3.42：図1)の定点当たり報告数は、前週より大きく増加した。保健所別では、秩父保健所を除く 15 保健所管内から報告があり、春日部(3.50 6.50)、川口(2.19 5.06)保健所管内で大きく増加し、草加(6.64)、朝霞(5.79)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では 1 歳が最も多く、1～4 歳で全体の 79.1%を占めている。流行性耳下腺炎(1.50 1.83：図2)の定点当たり報告数は前週より増加し、2012 年以降の最大値となった。保健所別では、秩父保健所を除く 15 保健所管内から報告があり、春日部(0.00 3.50)保健所管内で大きく増加し、さいたま市(3.26)、狭山(2.71)保健所管内で多い状況が続いている。年齢階級別では、3～7 歳で全体の 64.6%を占めている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎(3.53 3.46：図3)の定点当たり報告数は、前週と同水準に留まり依然多い状況にある。保健所別では、全保健所管内から報告があり、鴻巣(6.42)、川口(6.13)、川越市(5.75)保健所管内からの報告が多い。咽頭結膜熱(0.85 0.75：図4)の定点当たり報告数は、前週より減少したが、依然報告数の多い状況にある。保健所別では、春日部(1.67)保健所管内からの報告が多い。手足口病(0.49 0.76)の定点当たり報告数は、前週より増加した。保健所別では、草加(1.45)、川口(1.44)保健所管内からの報告が多い。眼科定点報告対象疾患では、急性出血性結膜炎 2 人、流行性角結膜炎 28 人の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、無菌性髄膜炎 2 人、マイコプラズマ肺炎 10 人の報告があった。

#### <全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし（結核を除く）	
三類感染症	腸チフス	1 人（推定感染地域 国外）
	腸管出血性大腸菌感染症	14 人（類型 患者 9 人、無症状病原体保有者 5 人、血清型 O157 9 人、O26 4 人、O121 1 人）
四類感染症	レジオネラ症	6 人（病型 肺炎型 6 人）
五類感染症	アメーバ赤痢	1 人（病型 腸管アメーバ症）
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2 人（菌種 <i>Enterobacter</i> sp. 1 人、 <i>Klebsiella</i> sp. 1 人）
	急性脳炎	1 人（病型 病原体不明）
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 人（血清群 A 群）
	後天性免疫不全症候群	2 人（病型 その他 1 人、無症状病原体保有者 1 人）
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 人
	侵襲性肺炎球菌感染症	2 人
	梅毒	2 人（病型 早期顕症 期 1 人、早期顕症 期 1 人）

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。  
衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613  
e-mail: [p5349952@pref.saitama.lg.jp](mailto:p5349952@pref.saitama.lg.jp) URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

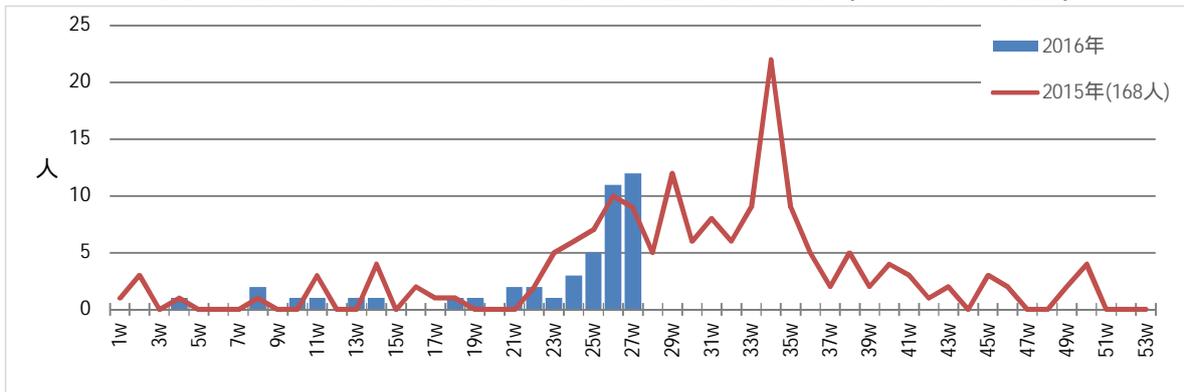
2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>) で御覧になれます。

## 注目すべき疾患

### - 腸管出血性大腸菌感染症 -

診断日を基準にした集計では、第27週に診断された腸管出血性大腸菌感染症は12人で前週(11人)に引き続き多い状況である。12人の血清型は0157が7人(VT2 4人、VT1,VT2 3人) 026が4人(VT1 3人、VT型不明1人) 0121が1人(VT2)であった(図1)。

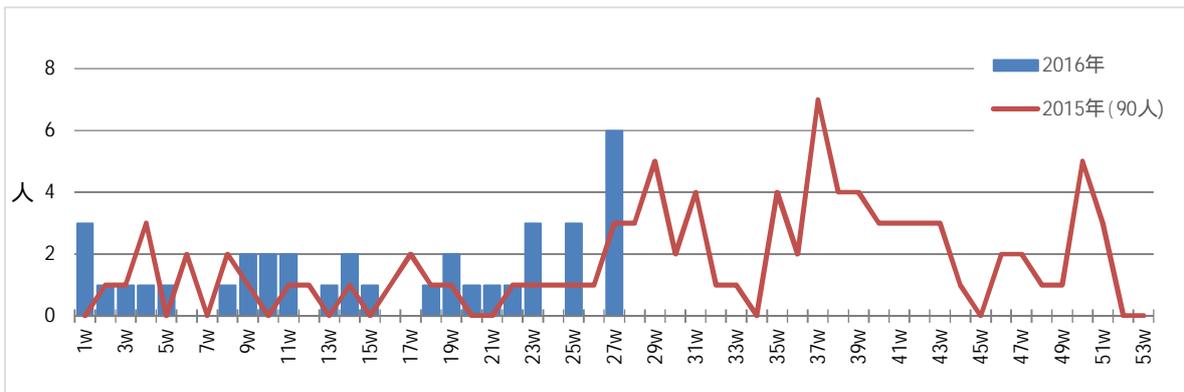
図1 腸管出血性大腸菌感染症 診断週別届出数の推移(2015年との比較)



### - レジオネラ症 -

診断日を基準にした集計では、第27週に診断されたレジオネラ症は6人で前週より増加した。また、年当初からの累積届出数は36人となり、前年同時期までの届出数26人より多い(図2)。

図2 レジオネラ症 診断週別届出数の推移(2015年との比較)



36人の性別は男が26人、女が10人で、年齢階級別では60歳代の13人が最も多く、次いで70歳代の11人であった(表1)。

表1 レジオネラ症 性別年齢階級別届出数

性別	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
男		3	3	9	8	3	26
女	1			4	3	2	10
計	1	3	3	13	11	5	36

< 今週の注目される定点把握対象疾患の推移 >

図1 ヘルパンギーナ

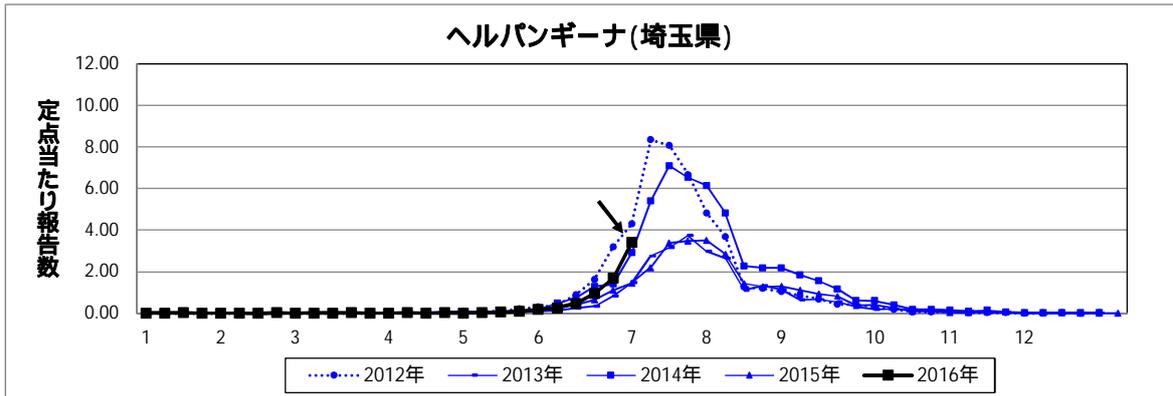


図2 流行性耳下腺炎

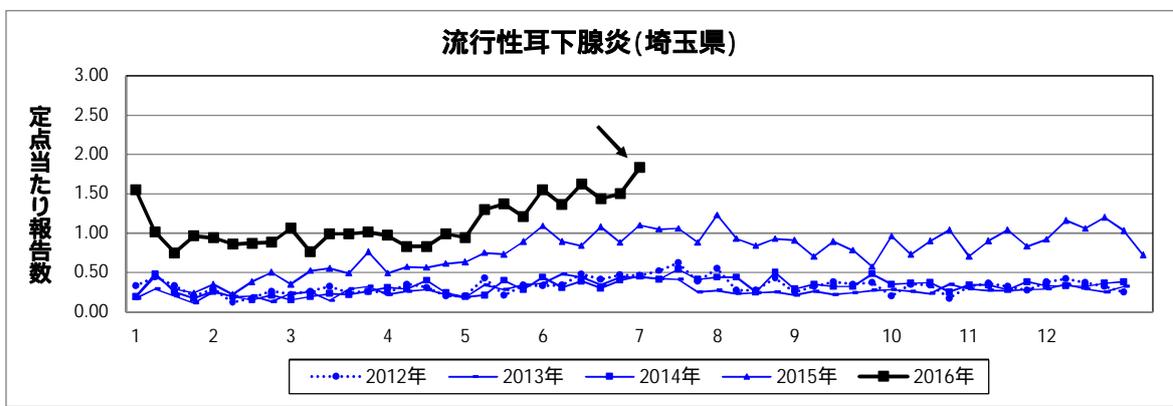


図3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

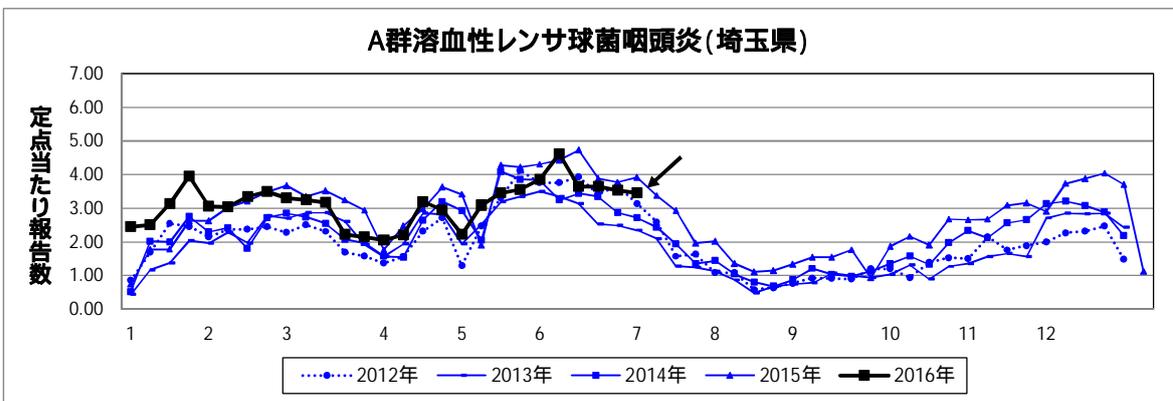
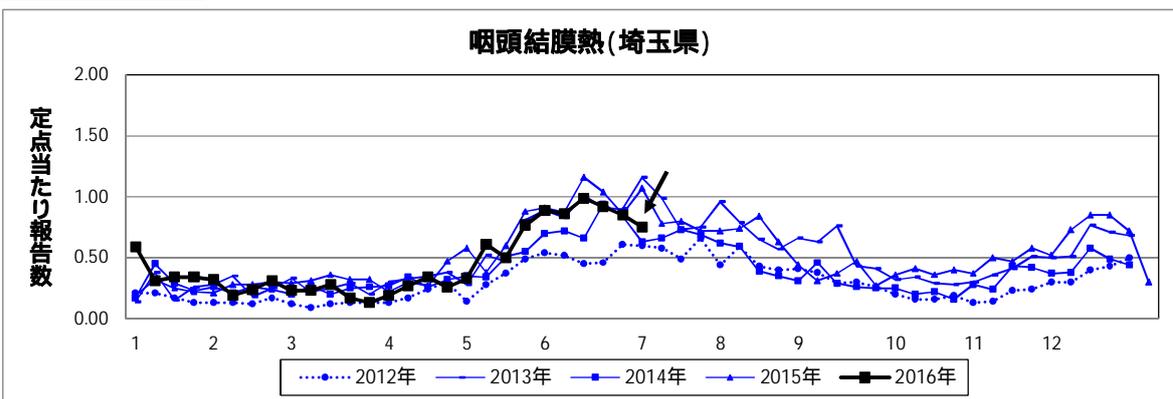


図4 咽頭結膜熱



感染症発生状況(全数把握対象疾患)  
(第27週)

(2016年7月12日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
<b>一類感染症</b>					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
<b>二類感染症</b>					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
<b>三類感染症</b>					
コレラ			腸チフス	1	2
細菌性赤痢		7	パラチフス		
腸管出血性大腸菌感染症	14	45			
<b>四類感染症</b>					
E型肝炎		10	東部ウマ脳炎		
ウエストナイル熱			鳥インフルエンザ(H5N1を除く)		
A型肝炎		3	ニパウイルス感染症		
エキノコックス症			日本紅斑熱		
黄熱			日本脳炎		
オウム病			ハンタウイルス肺症候群		
オムスク出血熱			Bウイルス病		
回帰熱			鼻疽		
キャサナル森林病			ブルセラ症		
Q熱			ベネズエラウマ脳炎		
狂犬病			ヘンドラウイルス感染症		
コクシジオイデス症			発しんチフス		
サル痘			ポツリヌス症		
ジカウイルス感染症			マラリア		
重症熱性血小板減少症候群			野兔病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱			レジオネラ症	6	36
つつが虫病			レプトスピラ症		
デング熱		6	ロッキー山紅斑熱		
<b>五類感染症</b>					
アメーバ赤痢	1	28	侵襲性肺炎球菌感染症	2	62
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		5	水痘*		6
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	22	先天性風しん症候群		
急性脳炎	1	27	梅毒	2	74
クリプトスポリジウム症			播種性クリプトコックス症		3
クロイツフェルト・ヤコブ病		4	破傷風		3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	11	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
後天性免疫不全症候群	2	22	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		4
ジアルジア症			風しん		4
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	5	麻しん		2
侵襲性髄膜炎菌感染症		1	薬剤耐性アシネトバクター感染症		2
<b>指定感染症</b>	該当疾患は無し				

水痘\*：患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計	4	1		

累計は診断日で集計  
\* 結核は月単位で集計、別に掲載します。



感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第27週 平成28年7月4日～平成28年7月10日)

	年齢別																				
	合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ #1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
RSウイルス感染症	11	2	3	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	121	1	6	26	14	21	15	17	6	5	1	2	6	1	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	557	-	5	25	36	69	72	74	66	51	59	29	47	4	20	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	901	7	63	124	92	95	105	78	62	32	36	34	74	10	89	-	-	-	-	-	-
水痘	95	-	1	7	4	4	18	15	11	13	12	6	4	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	122	3	8	43	26	15	7	10	2	2	2	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	46	-	1	1	2	5	14	7	7	2	3	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	97	1	37	49	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	5	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	551	3	25	163	111	89	73	47	16	7	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	294	-	1	7	9	38	31	44	39	38	28	20	34	2	3	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	28	-	-	-	1	-	2	1	-	2	-	4	2	-	2	4	6	1	1	1	2
細菌性髄膜炎 #2	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	10	-	3	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表中の数値は各定点からの報告数( - : 0 )

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

# 全国・関東情報 第 25週

( 6月20日～6月26日 )

平成28年7月13日

インフルエンザの定点当たり報告数は第7週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(1.02)、栃木県(0.13)、鹿児島県(0.13)、宮城県(0.11)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は2例と前週と比較して減少し、2県から報告があった。

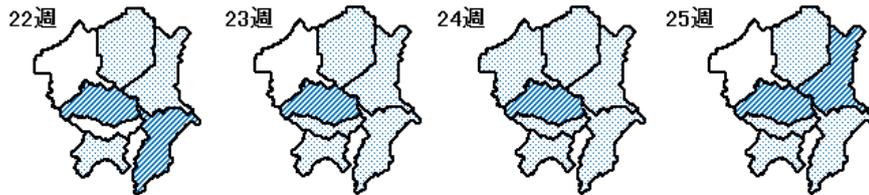
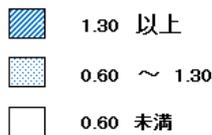
RSウイルス感染症の報告数は366例と増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約79%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は福島県(1.70)、新潟県(1.45)、石川県(1.38)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は北海道(4.84)、長野県(4.28)、大分県(4.25)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は大分県(11.33)、愛媛県(7.73)、宮崎県(7.58)である。水痘の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は宮城県(0.78)、北海道(0.77)、宮崎県(0.69)である。手足口病の定点当たり報告数は第14週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(5.82)、鹿児島県(1.87)、香川県(1.11)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は宮崎県(1.67)、山梨県(1.33)、三重県(1.29)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は宮崎県(3.03)、佐賀県(2.91)、山形県(2.23)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は北海道(2.87)、沖縄県(2.43)、静岡県(2.10)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は減少した。20都道府県から41例報告があり、年齢別では0歳(5例)、1～4歳(28例)、5～9歳(7例)、10代(1例)であった。

## <関東情報>

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、埼玉県(1.44)、茨城県(1.32)からの報告が多い。

### 流行性耳下腺炎



平成28年 25週

		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	173	30	1	10	1	2	3	8	5
	定点当たり	0.04	0.02	0.01	0.13	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02
RSウイルス感染症	報告数	366	70	3	6	1	10	4	32	14
	定点当たり	0.12	0.07	0.04	0.13	0.02	0.06	0.03	0.12	0.07
咽頭結膜熱	報告数	2,200	680	41	19	28	146	79	212	155
	定点当たり	0.70	0.72	0.55	0.40	0.48	0.92	0.59	0.82	0.73
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	8,658	2,940	159	128	202	581	535	780	555
	定点当たり	2.75	3.11	2.12	2.67	3.48	3.65	3.99	3.02	2.62
感染性胃腸炎	報告数	17,081	5,318	331	120	319	984	740	1,575	1,249
	定点当たり	5.42	5.63	4.41	2.50	5.50	6.19	5.52	6.10	5.89
水痘	報告数	1,390	474	30	7	23	101	85	134	94
	定点当たり	0.44	0.50	0.40	0.15	0.40	0.64	0.63	0.52	0.44
手足口病	報告数	1,288	362	18	19	10	61	73	135	46
	定点当たり	0.41	0.38	0.24	0.40	0.17	0.38	0.54	0.52	0.22
伝染性紅斑	報告数	1,384	308	20	59	61	19	51	49	49
	定点当たり	0.44	0.33	0.27	1.23	1.05	0.12	0.38	0.19	0.23
突発性発しん	報告数	1,960	677	48	46	33	115	84	220	131
	定点当たり	0.62	0.72	0.64	0.96	0.57	0.72	0.63	0.85	0.62
百日咳	報告数	101	17	-	1	4	-	4	7	1
	定点当たり	0.03	0.02	-	0.02	0.07	-	0.03	0.03	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	4,661	973	40	17	31	154	92	420	219
	定点当たり	1.48	1.03	0.53	0.35	0.53	0.97	0.69	1.63	1.03
流行性耳下腺炎	報告数	3,554	976	99	31	33	229	153	172	259
	定点当たり	1.13	1.03	1.32	0.65	0.57	1.44	1.14	0.67	1.22
急性出血性結膜炎	報告数	3	3	-	-	-	1	1	-	1
	定点当たり	0.00	0.01	-	-	-	0.02	0.03	-	0.02
流行性角結膜炎	報告数	558	269	30	11	15	28	26	33	126
	定点当たり	0.81	1.30	1.76	0.92	1.07	0.68	0.74	0.85	2.57
細菌性髄膜炎 #2	報告数	12	1	-	1	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.03	0.01	-	0.14	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	報告数	24	8	3	-	-	2	1	2	-
	定点当たり	0.05	0.10	0.23	-	-	0.20	0.11	0.08	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	332	41	6	4	4	5	8	12	2
	定点当たり	0.70	0.50	0.46	0.57	0.50	0.50	0.89	0.48	0.20
クラミジア肺炎 #3	報告数	5	1	-	-	1	-	-	-	-
	定点当たり	0.01	0.01	-	-	0.13	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	41	5	-	1	1	1	-	1	1
	定点当たり	0.09	0.06	-	0.14	0.13	0.10	-	0.04	0.10

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-0.00)

この情報は感染症法に基づく、感染症発生動向調査により、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所及び越谷市保健所の持つ病原体検査情報をまとめたものです。

## 今月のコメント

6月に入り、腸管出血性大腸菌の検出数が増加してきました。O157が9件、O26が1件、その他の血清型が4件検出されました。また、定点把握対象疾患の手足口病、ヘルパンギーナの検体数も増加しています。

## ウイルス分離状況 全数把握対象疾患

四類感染症 平成28年6月30日現在 (累計:1月～)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数			
		4月	5月	6月	累計
E型肝炎	検体数	2	1		16
	E型肝炎				4
	検査中				3
A型肝炎	検体数		1		3
	A型肝炎		1		3
	検査中				
ジカウイルス 感染症	検体数				4
	検査中				
デング熱	検体数	2			5
	検査中	1			4

五類感染症 平成28年6月30日現在 (累計:1月～)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数			
		4月	5月	6月	累計
脳炎・脳症 (四類以外)	検体数	12	14	13	57
	ヒトヘルペス 6	1			2
	インフルエンザ B				2
	インフルエンザ AH1pdm09				2
	検査中		3	7	10
風しん	検体数	1	2		3
	検査中		1		1
先天性風しん 症候群	検体数				
	検査中				
麻疹	検体数		9	6	19
	麻疹				2
	風しん		2		2
	ヒトパルボ B19				1
	インフルエンザ B				1
検査中		6		6	

## 定点把握対象疾患

季節性インフルエンザ

平成28年6月30日現在

臨床診断名	検出月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ	検体数	83	76	33	81	14	2							289
	インフルエンザ AH3	6	2	1	3	1								13
	インフルエンザ B	24	23	19	58	11								135
	インフルエンザ AH1pdm09	50	46	13	16	1								126
	インフルエンザ A			1										1
	アデノ 2			1	1									2
	アデノ 3		1											1
	アデノ 4					1								1
	ライノ			1	1									2
	ヒトヘルペス 7		1											1
	EB			1										1
	検査中						1	2						3

臨床診断名	ウイルス 検出月 検体合計数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
		26	5	8	56	53	58							
RSウイルス 感染症	検体数	1		1	9	2	3							16
	RS	1		1	4									6
	ライノ			1	5	1								7
	ヒトメタニューモ				1									1
	コロナ				1									1
	アデノ nt				1									1
	ボカ 検査中				2	1								3
咽頭結膜熱	検体数	3	1		12	15	12							43
	アデノ 2				1	5								6
	アデノ 3	1				2								3
	アデノ 5				2	1								3
	インフルエンザ C				1									1
	コロナ 検査中				1		3	12						15
感染性胃腸炎	検体数	8	4	5	20	22	8							67
	ノロ	4	1		1	5								11
	サボ			1	1	4								6
	アストロ		1		1		1							3
	ロタ (A)	1	1		9	1								12
	アデノ 2				1	1								2
	アデノ 3				1									1
	アデノ 40/41	1				2								3
	ライノ	1												1
	インフルエンザ AH1pdm09				1									1
	検査中					1	7							8
	水痘	検体数				1								
水痘帯状疱疹					1									1
検査中														
手足口病	検体数	1			1	3	6							11
	コクサッキー A6	1												1
	検査中					3	6							9
突発性発しん	検体数				1									1
	ヒトヘルペス 6				1									1
	検査中													
ヘルパンギーナ	検体数			1	2	3	14							20
	コクサッキー A6			1										1
	ヒトメタニューモ				1									1
	検査中					3	14							17
流行性耳下腺炎	検体数	1				1	3							5
	ムンプス 検査中						3							3
無菌性髄膜炎	検体数	12		1	10	7	12							42
	ムンプス				3									3
	コクサッキー B2	2												2
	エンテロ nt	1												1
	検査中					3	9							12

nt : not typed

## 細菌分離状況

平成28年6月30日現在

病原体名	分離月	4月	5月	6月	備考(6月分)
三類	赤痢菌		1	4	<i>S.sonnei</i> :3(イタリア・台湾:1,インドネシア:1,国内:1), <i>S.flexneri</i> variantY:1(中国)
	腸管出血性大腸菌 O157		3	9	H7(VT1&2):4,H検査中(VT1&2):5
	腸管出血性大腸菌 O26		1	1	H11(VT1):1
	腸管出血性大腸菌その他	1	1	4	O91:H-(VT1&2):1,OUT:H19(VT1):1,OUT:H-(VT1):1,O121:H検査中(VT1&2):1
四類	レジオネラ菌		1		
五類	百日咳菌			1	
	侵襲性髄膜炎菌		1		
	溶血性レンサ球菌	2	2	2	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12:1(劇症型), <i>Streptococcus pyogenes</i> T3:1(溶血性レンサ球菌感染症)
	その他	2	7	7	感染性胃腸炎:3( <i>Campylobacter jejuni</i> :1, <i>Escherichia coli</i> O159:H20(ETEC):2) CRE:4( <i>Enterobacter aerogenes</i> :3, <i>Enterobacter cloacae</i> :1)

感染症発生動向調査 2016年

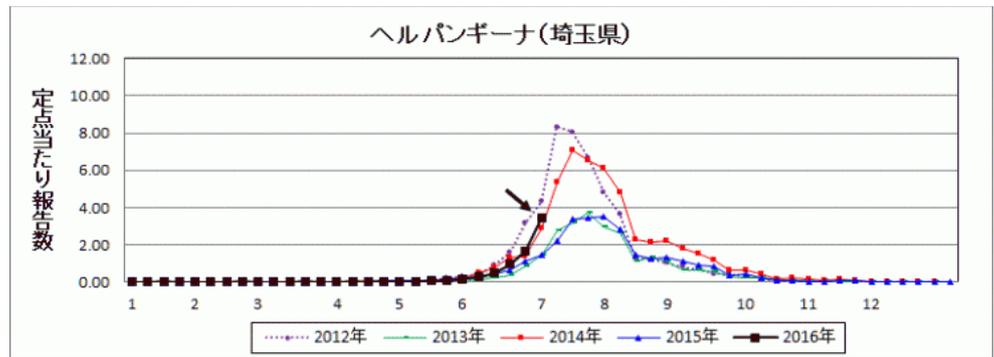
- [感染症の流行状況 2016年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第9週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第10週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第11週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第12週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第13週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第14週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第15週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第16週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第17週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第18週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第19週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第20週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第21週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第22週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第23週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第24週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第25週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第26週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第27週](#)

感染症の流行状況 2016年 第27週

2016年第27週（平成28年7月4日～7月10日）の要点 平成28年7月13日

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、前週より大きく増加しました。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
<a href="#">インフルエンザ</a>	→	★	<a href="#">伝染性紅斑</a>	→	★
<a href="#">RSウイルス感染症</a>	→	★	<a href="#">突発性発しん</a>	↓	★
<a href="#">咽頭結膜熱</a>	↓	★★★	<a href="#">百日咳</a>	↑	★
<a href="#">A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</a>	→	★★★	<a href="#">ヘルパンギーナ</a>	↑	★★
<a href="#">感染性胃腸炎</a>	↓	★★	<a href="#">流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)</a>	↑	★★★
<a href="#">水痘(みずぼうそう)</a>	→	★	<a href="#">急性出血性結膜炎</a>	→	★
<a href="#">手足口病</a>	↑	★	<a href="#">流行性角結膜炎</a>	→	★★

\*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。\*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) \*3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)をご覧ください。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン